

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
3 【そなえる】	㊫【学校・家庭・地域での日頃の備え】 災害時における救急法を知り、いざという時のために自分でできることを身につけておこうという態度を養う。 ㊬【身を守り、生き抜くための技能】 危機を予測（回避）したり、災害に直面した際に自他の体を守ったりするための技能を身につける。	総 合

【題材】 「救急法講習会」 「伊藤さん（津波体験者）の話を聞く会」

【対象】 第5学年 44名 第6学年 47名

【実践の概要・詳細】

〈実践の概要〉

1学期の終わりに、防災に対するアンケートを全校児童に行った。その結果から児童自身が課題意識を抱いているのは次の2点とわかった。

- (1) 自分たちでできる救急法はないか。
- (2) 防災に向けて何が必要かはっきりわからない。

そこで、2学期に具体的な学習に取り組んでいくこととした。



〈実践の詳細〉

- 1 救急法講習会 11月 6日
市の消防署では毎年夏に『チャレンジ防災スクール』を開催している。そこで、高学年を対象にその内容の中から、アンケートで関心の高かった救急法について取り上げてもらうことにした。
 (1) 救急法講習会 【総合1】
 (2) 感想をまとめる 【学活1】
 (3) 復興学習交流会での発表 12月 5日
- 2 伊藤さん（津波体験者）の話を聞く会 11月27日
学区内にある仮設住宅の方々との交流を今年度から始めた。その中で実体験から子どもたちにメッセージを伝えていきたいと思う方がいることを知った。実体験のある方の話を聞くことで子どもたちがこれからの自分の生き方を考えるきっかけとなり、防災に向けて、何が大切かを学ばせたいと考えた。
 (1) 「伊藤さん（津波体験者）の話を聞く会」 【総合1】
 (2) 感想をまとめる 【学活1】
 (3) 復興学習交流会での発表 12月 5日
 【学校行事1】



【授業の展開】

(1) 救急法講習

- ・開会のことば
- ・校長先生のお話
- ・講師紹介
(遠野消防本部 5名)
- ・講習
止血法 緊急搬送法 三角巾で包帯を作る
(4グループで実施。タンカは頭の方から運ぶ。)
- ・お礼のことば
- ・閉会のことば



(2) 「伊藤さんの話を聞く会」

- ・開会のことば ※伊藤さんの話から
- ・校長先生のお話 ①寒さ対策 (カーテンでスカートを作る)
- ・講師紹介 ②何が何でも生きるんだ→決してあきらめない。
- ・伊藤さんの話 ③今、生きていること→家族や仲間感謝していること。
- ・お礼のことば ④今、自分ができる事→3. 1 1を人々に語り継ぐこと。
- ・閉会のことば



児童の感想

- (1) ・今日の救急法講習会で担架を棒と毛布だけでつくれたのはすごいと思いました。もし、こういう場所で出会った時は自分から応急措置をしてあげたいです。(5年男)
- ・今日教えてもらった三角巾のやり方や止血の方法が少し難しかったけど、家で練習して何かあった時のためにそなえておきたいです。(6年女)
- (2) ・伊藤さんの言っていたことは、これからの人生で大切なことがいっぱいでした。(5年女)
- ・実際に体験したことを話してもらったのでとてもリアルで、生き残り、家族と再会できることがどれだけ大変だったかよくわかりました。(6年男)

まとめ ○成果 ●課題

- 救急法講習会や津波体験者の話を聞く会を設定したことは、本校児童にとってはとても貴重な体験であり、とても有意義だったと言える。特に、一枚の布から三角巾を作り包帯にして使用方法は児童には難しく悪戦苦闘だったが、その分真剣に覚えようとしていた。また、伊藤さんの話を聞く会は、復興教育の原点とも言える体験者自らの話だったので聞く側の児童も一人一人の心に響くものがあり、感想にはどの子もびっしりと書いていた。
- 災害に備えるための心構えや技能はくり返すことで身につけていくと思う。今年の実践を整理して今後も継続して実践できればと考えている。